

四間道・円頓寺コースとノリタケの森

しけみち えんどうじ

みんなで歩こう！なごやかウォークガイドブック（＊）に紹介されている「四間道と円頓寺コース」をもとに、三之丸（市役所・県庁）からスタートし、名古屋開府当時の趣が残る京町筋・四間道と昭和レトロの雰囲気が残る円頓寺商店街を歩きます。さらに、歴史を感じる赤レンガ建築と豊かな緑が織りなす、明るい都市の緑地であり「都市のオアシス」（公益財団法人 都市緑化機構）に認定されている「ノリタケの森」へと歩きます。道はほぼ平坦で、5.6km 程度です。

- 1、開催月日 2016 年 12 月 3 日（土）13:30～16:10
17:00 からは忘年会です。

2、踏査コース・スケジュール

地下鉄市役所駅（7 番出口）13:30 発 ⇒ 三之丸 ⇒ 外堀 ⇒ 京町筋 ⇒ 明倫堂跡（那古野神社・東照宮）⇒ 五条橋 ⇒ 浅間神社・四間道 ⇒ 円頓寺商店街 ⇒ ノリタケの森 15:10 頃着（ウェルカムセンター、ノリタケスクエア名古屋・カフェ ダイヤモンドデイズ、クラフトセンター（ここは有料）等 約 50 分～1 時間程度）⇒ 「なごや観光ルートバス「メーグル」（210 円）に乗車」ノリタケの森（16:12 発）⇒ 文化のみち二葉館（16:43 着）⇒ 旧豊田佐助邸の通り（主税町筋）を西へ約 400m ⇒ 三菱UFJ 銀行主税町クラブ（忘年会会場）

3、主な見どころ

三之丸： 現在官庁街の三の丸は、かつて名古屋城内上級武士の屋敷地であった。古地図を見るとその広大さが理解できる。（＊ ＊ ＊ 古地図で歩く 城下町名古屋）

外堀： かつて瀬戸電が走っていた空堀。今でも階段が残っている。江戸時代はここまでが名古屋城の敷地。狸や蜚が生息する。（同上）

京町筋： 「本町通」と並ぶ城下の一等地、京町筋。茶屋家（尾州茶屋家）の向かいには伊藤屋呉服店（松坂屋）など老舗が軒を連ねていた。（同上）

明倫堂跡： 尾張藩の藩校。初代校長を著名な細井平洲が務めた。明治に廃校となり名古屋東照宮と那古野神社が当地に移転した。（同上）

那古野神社： 創建は延喜 11 年（911）。古くは天王社、亀屋天王社と呼ばれ、名古屋城築城後は城内三之丸の一角に鎮座し、城の総鎮守、城下名古屋の氏神とされた。明治 9 年現在地に移転され、東照宮と並び鎮座。

五条橋： 清州から移築した橋。ここを渡ると四間道にいたる那古野地区だ。堀川端には豪商の蔵が並んで

いた。

円頓寺・四間道： 名古屋駅と名古屋城の間に位置する円頓寺、そして四間道。家康の清州越によって円頓寺が現在の場所に移され、その門前町として形成された。堀川に架かる五条橋もまた清州にあった橋の名前である。円頓寺商店街は名古屋で最も歴史のある商店街の一つで、かつては栄、大須と並ぶ名古屋の三大盛り場の一つだった。繁華街として発展するのは明治中期以降。笹島に名古屋駅が開業し、交通網が整備されるのにもとない、劇場や寄席、芸者置屋、商店が増え、市電が通る江川線沿いに夜店が立ち並んだ。名古屋駅からほど近い地の利もあって、昭和初期まで大変な賑わいを誇った。

昭和 40 年代に市電が廃止されて以降、急速に活気が失われていったが、近年はレトロな空気がリアルに感じられるエリアとして再評価の気運が高まっている。昭和 30 年代から続く七夕まつりは円頓寺の名物で、巨大なハリボテが 100 個以上アーケードに吊り下げられ、多くの人出でにぎわう。

昭和のムードぶんぶんの円頓寺に対し、四間道という地名は、1700 年の元禄の頃に大火事が起り、防火のために道路を四間に拡幅したことに由来する。白漆喰に黒板壁の土蔵や格子窓の町屋が整然と並び、趣がある。古くからの商店がそのまま残る円頓寺に対して、古い建物を生かしたレストランや雑貨店など再生型ショップが増えている。（**尾張名古屋大百科より）

ノリタケの森（一部有料#1）： ノリタケの本社工場敷地を再利用した陶磁器に関する複合施設。緑あふれる園内では、陶磁器の製造工程の見学や体験コーナー他、レストランやショップなどがある。

#1：クラフトセンター・ノリタケミュージアムのみ有料 500 円、65 歳以上の方は無料（各証明書の提示必要）。

明治になると名古屋市内で輸出向けの陶磁器の絵付け加工が盛んになる。・・・中略、この時代、名古屋を国内屈指の陶磁器生産地に押し上げたのが森村組（現在の森村グループの母体）だ。明治初期に東京で貿易商社として創業した森村組は、輸出用陶磁器の生産拠点として 1896（明治 29 年）年に東区槇木町に絵付け工場を、1904（明治 37 年）年には則武に日本陶器（現・ノリタケカンパニーリミテド）を開設。日本初の近代的な陶磁器生産設備を擁した日本陶器は、オリジナルの高級洋食器、ノリタケチャイナを輸出し大成功を収める。これによって名古屋の陶磁器産業は大きく成長し、昭和ひとケタの頃には国内の輸出陶磁器の 80% を占めるほどになった。・・・中略、森村グループの技術は特殊陶器の分野でも活かされた。大容量の電力輸送に不可欠となった高圧碍子、軍需産業の拡大によってニーズが高まった航空機用プラグなどが関連会社によって、昭和初期に開発され、その後ファインセラミックスへと進化していった。・・・後略（**尾張名古屋大百科より）

* 「みんなで歩こう！なごやかウォークガイドブック」

⇒ 名古屋市教育委員会生涯学習部スポーツ振興課 発行 330 円

名古屋市内のウォーキングコース 50 が紹介されている。

** 「名古屋開府 400 年記念誌 尾張名古屋大百科」（2010 年）

⇒ 名古屋開府 400 年記念事業実行委員会発行

事務局（名古屋市総務局総合調整部総合調整室）

*** 「古地図で歩く 城下町名古屋」（2010 年 3 月） ⇒ 古地図で歩く城下町なごや実行委員会

（名古屋市、財団法人名古屋城振興協会、財団法人名古屋観光コンベンションビューロー）